

フレイル予防

質問者 加藤 博男 (公明党)

フレイル予防とはどのようなものか。また、これを今後どのように広めていくのか。

【答弁】 75歳以上の高齢者の多くは、フレイルの段階を経て要介護状態になることから、フレイル予防に取り組むことが重要である。

また、フレイルの兆候を早期に発見し、しっかり食べ、運動し、社会とのつながりを持つなど日常生活を見直すことで加齢に伴う体や心の衰えを予防し、改善できることがわかってきている。

そこで、本市では、30年度はフレイルを予防するための「フレイルチェック」をS型デイサービスの会場、地域福祉共生センター「みなくる」、生涯学習センター等で実施するとともに、元気な高齢者を事業運営のサポーターとして養成し、今後は住民主体の活動として市内全域に広げていきたい。

語句説明

フレイル

「虚弱」という意味。健康な状態と日常生活でサポートが必要な要介護状態の中間の状態。

党派名

自民党＝自由民主党静岡市議会議員団

志政会＝志政会

公明党＝公明党静岡市議会

共産党＝日本共産党静岡市議会議員団

山と町＝「山と町」安全の会

緑の党＝緑の党グリーンズジャパン

高齢者による自動車運転の安全確保

質問者 寺尾 昭 (共産党)

高齢者による自動車運転の安全確保に向け、市と警察の協議をどのように進めているか。また、運転免許の自主返納者の交通手段確保に対する不安をどのように解決するか。

【答弁】 警察との協議については、市内3警察署及び交通安全協会と年4回の連絡会議のほか、同協会とは年2回程度、意見交換会を開催し、高齢者の交通事故対策を含めた交通安全に関する協議と情報共有を行っている。

また、運転免許の自主返納者に対し、静岡県警察が民間事業者と連携してタクシー運賃の割引や高齢者専用のバス・電車全線フリー乗車券の60歳からの早期販売などの「運転免許自主返納者サポート事業」を進めており、市ではこの事業の周知や新規協力事業者の掘り起こしを県警と連携して行い、自主返納の促進に向けて不安感の解消に取り組んでいく。

清水エスパルスの選手たちが本会議を傍聴しました!

「市民に開かれた議会」の実現に向けて、市民と議会との距離を縮めるための事業の一環として、清水エスパルスの六反 勇治選手と立田 悠悟選手に静岡市議会6月定例会初日(6月19日)の本会議を傍聴していただきました。

本会議では6月定例会で審議する議案の上程、提案理由の説明などが行われ、両選手とも真剣に聴き入っていました。

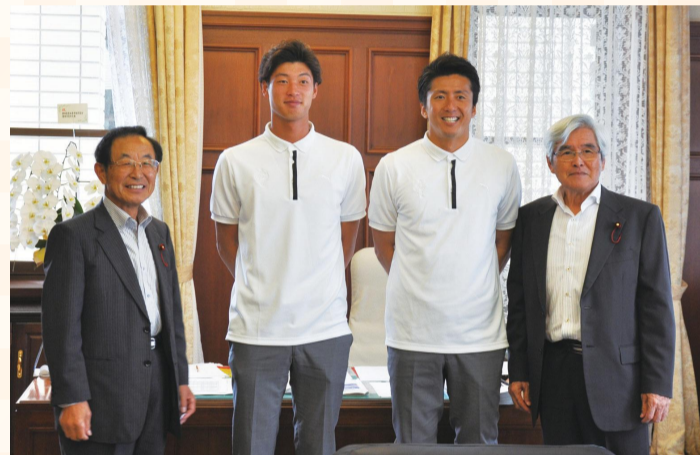
本会議終了後には、議長、副議長との対談が行われました。

議長から傍聴してみたの感想を聞かれ、六反選手からは「普段味わえない雰囲気があり、貴重な体験であった」、立田選手からは「審議される議案が道路や体育館といった生活に身近なものもあり、市議会を以前より身近に感じた」との感想をいただきました。

また、副議長から、傍聴に来ることができない際はインターネットで市議会の中継や録画映像を見ることができるという説明があり、両選手にその場でスマートフォンを使ってインターネット中継の録画映像をご覧いただきました。

最後に議長、副議長から、今後も市議会に関心を寄せ、情報発信していただくようお願いしました。両選手には「まずは傍聴やインターネット中継を活用して、市議会について知っていくことが大切」と感じていただくことができました。

このような機会を通じて、市民の皆さんに静岡市議会をより身近に感じていただけるよう、今後も取り組んでまいります。



左から 田形議長、立田選手、六反選手、望月副議長



本会議を傍聴



スマートフォンでインターネット中継を視聴

清水都心まちづくり特別委員会

～清水港周辺を視察しました～



6月8日、清水都心まちづくり特別委員会が清水港周辺を視察し、清水港線跡自転車歩行者道や日の出地区倉庫群などの現状を担当者から聞きました。

総合交通政策特別委員会

～静岡県タクシー協会と意見交換会を行いました～



バス、タクシー等市内交通機関の現状を調査、把握するため、6月19日に静岡県タクシー協会からタクシーの利用状況、サービス、活動内容等を聴き、その後、意見交換を行いました。

意見交換では、地域の交通基盤の一つであるタクシーについて、行政がどのようにタクシー業界と協力し、交通に関する課題に対応していくかなどについて活発な意見交換が行われました。

姉妹都市の皆さんによる議長表敬訪問・議場見学

6月8日にシェルビービル市(アメリカ合衆国インディアナ州)、6月20日にはオマハ市(アメリカ合衆国ネブラスカ州)の訪問団の皆さんが静岡市議会にお見えになりました。



シェルビービル市からは、青少年の皆さんが田形議長を表敬訪問されました。皆さんが学んできた日本語での挨拶も交えながら議長と歓談されたのち、議長の案内で議場を見学されました。議長が座席に座った形での質疑応答では、実際の議会の雰囲気を感じていただけたのではないのでしょうか。



オマハ市からはクレイトン大学の皆さんが議場の見学にいらっしやいました。議場や市議会についての説明の後、議会広報のSNS活用などの多くの質問をいただきました。また、高さ調節が可能な演台や議場内に設置している折り畳み式の防災ヘルメットなど、議場の設備にも興味を示されていました。